

教職員のコーナー

日本語との縁を大切に

学校事務員 金 志映

私が日本語に始めて出会ったのは、高校生の時です。第二外国語として習い始めたのですが、授業の最初から、出てくる言語の不規則さに飽きて、嫌いな科目の一つでした。私が高校2年生の時、姉妹提携を結んでいた日本の高校から、数名の学生が修学旅行で私の学校を訪ねてきました。その時、初めて日本人と会いました。スカートの長さやルーズソックスにはさすがに驚きましたが、似ていることがたくさんあることにもっと驚きました。グループで話し合う時間があり、女の子2人と一緒になりました。照れながら「こんにちは」と声をかけた時の、どきどきした気持は今も忘れられません。たった20分の出会いでしたが、日本の学生さんと友達になりました。この交流会以来、日本語が嫌いとは思わなくなりました。言葉が違うのに友達になれるということに感動したのです。

とはいえ、そんなに好きでもなかった日本語を大学で専攻しようと思ったことは、今考えても不思議で、何かに引きつけられたかのように。私が日本語を好きになったきっかけは、日本への旅行でした。大学1年生の夏休みに、大阪周辺を自由旅行しました。道も知らない、日本語もできない私達には、大変な旅行でした。初めての日本旅行で、たくさんのカルチャーショックを受けました。バスは後ろから乗る、料金は降りる時に払う、ビールと煙草の自動販売機が町中に何気なく置いてある、トイレにゴミ箱がなくて困るなど…。道に迷う度に勇気を出して道を聞きましたが、言葉が聞き取れなくて結局身ぶり手振りになってしまいました。しかし、皆親切で、バス停まで連れて行ってくれたり、荷物を預かってくれたり、何度も助けられました。この、たった4日の旅行で日本人が好きになって、勉強も頑張ろうと決意したのです。

日本語の勉強で、一番大変なところは漢字です。韓国人が日本語を習い始める時は、単語を並べるだけでも意味が通じるので、大変学びやすい言語といえます。しかし、その反面、諦める率が高い言語でもあります。その1番の原因は、漢字だと思えます。日本語力の向上のために、漢字は必ず勉強しなければなりません。ところが、その読み方の多さに、韓国人は閉口してしまうのです。私が漢字と

いう険しい山を乗り越えようと決意することができたのは、漢字の面白さが分かった時からです。「𪛗」「峠」など日本で作られた漢字に心を奪われて、面白いと思うようになったのです。その後、韓国語と関連させたり、自分なりに規則を発見したりしながら、一つ一つ覚えてきましたが、今だに漢字は難しいです。でも、日本語の多様な意味を漢字1文字で表せることに興味を持って学んでいます。難しいながらも諦めるつもりはありません。

最近よく思うことがあります。きっと日本語と私には、何かの縁があると。嫌になって、諦めてしまおうとする度、いつも何かに救われてきた気がします。去年の今頃も、日本語に人生をかけるなんてやめた方がいいと周りの人から散々言われて、気持が弱くなっていましたが、日本人学校で勤める機会を得て、ますますその縁は深くなったようです。これからはこの縁を大切にして、私なりに日本語を生かしているいろいろな役割を果たしていきたいと思っています。こんな未熟な私にも言葉というものに一つの思いがあります。最近の若者の使う言葉が、大変乱れていると感じる事です。元々言葉は時代によって変わるものですが、今の変化は便利さと使いやすさだけを求めているようで残念に思います。もっと自分の国の言葉を愛して、大切にすべきではないでしょうか。これはもちろん、韓国の若者にも言えることです。

ちなみに、私が今まで日本語を勉強してきた一番嬉しかった瞬間は、日本のレストランでアルバイトをしていた時、お客さんから「きれいな日本語を使っていますね。」と褒められたときです。

児童生徒数

学 年	男 子	女 子	計
小 1	3	2	5
小 2	1	0	1
小 3	3	3	6
小 4	3	4	7
小 5	4	2	6
小 6	1	1	2
中 2	0	1	1
計	15	13	28

1月26日現在

家庭数 22